

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0372100941		
法人名	社団医療法人 三和会		
事業所名	グループホーム 「たんたん」		
所在地	岩手県岩手郡雫石町板橋3-7 (電話) 019-692-3788		
評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号		
訪問調査日	平成20年12月5日	評価確定日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(20年10月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		950 円

(4) 利用者の概要(10月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	- 名	要介護2	5 名			
要介護3	2 名	要介護4	2 名			
要介護5	- 名	要支援2	- 名			
年齢	平均	88.8 歳	最低	82 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	盛岡繋温泉病院、つなぎ歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームたんたん」は盛岡市内から車で約20分、国道46号線の繫十文字交差点から小岩井方面に進んで間もない閑静な地点に立地している。周囲は農地、林地で道路を挟んだ向かいにセイコーの工場があり、人家が点在する。隣接して同一法人が運営する老人保健施設、通所リハビリテーション事業所などがあり、ホームのクラブ活動のほか保健、栄養などの面でも連携がとられている。施設の間取りは、広く、明るく、機能的な共用空間はよく考えられた配置であることを感じる。利用者の年齢は90歳以上の方が9人中5人で半数を超え、平均年齢は高いが、表情が明るく、穏やかな雰囲気印象的である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の課題は、重度化への対応、防災対策での地域との連携の2点であった。重度化や終末期に向けた方針は、運営者、管理者、全職員が共有している。隣接する老人保健施設との連携も考慮されている。防災対策における地域との連携については、運営推進会議の議題でも取り上げられ、今年度中の解決を目指して検討中である。いずれの課題も運営推進会議でも議論され、関係者の共通認識のもとに取組がなされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、年に1度、各職員がそれぞれ評価項目を点検し、更にその結果を管理者がまとめている。改善にまで至っていない課題もあるが、一つ一つ改善する努力を積み重ねている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの運営状況、19年度の決算報告、年間行事予定、実地指導や外部評価の結果などについての報告が行われ、これらを含めて運営全般についての意見交換が行われている。特に防災対策については、地域や行政の関心も高く、活発な意見交換が行われ、対応についての検討が進んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの意見、要望は、毎月の面会時や電話連絡の際にホームに伝えられている。運営推進会議には家族代表が2年任期の交替で参加し、意見を述べている。また、19年度からは家族アンケートも行っている。しかし、集団としての家族全体とホームとの話し合いの機会がない。行事で各家族が集う機会に、短時間で連絡事項の伝達と併せ、家族全体と話し合う場を設定することも検討課題と思われる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の人達とは、日々の散歩時に出会いの場があり、話し合いの機会がある。また、菊の鉢、野菜の差し入れなどを通じての交流もある。地域の自治会には同一敷地内にある関連施設と共に加入している。更に、運営推進会議での提言もあり、地域の防災連携などについて検討が進められている。施設、地域双方の協調と連携により、自然で、親密な近所づきあいが築き上げられることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念中のキーワードは「人間としての尊厳」、「家庭的な雰囲気の中で個性を生かす」、「生きがいのある日常生活」である。処遇においてももっとも基本的で、かつ重要なことを理念に反映させている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は全員、理念が記載されたカードをポケットに入れて携帯しており、日々の介護の現場でも「迷った時には理念に戻る」という姿勢で対応している。理念はホーム内にも掲示している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の人達とは、日々の散歩時の出会いでの話し合いがあり、菊の鉢、野菜の差し入れなどを通じての交流もある。ホームの敬老会では地域からの参加者が民謡を披露した。また、近隣の障害児施設(希望が丘)、養護老人ホーム(松寿荘)、セツ森保育園などの施設との交流もある。地域の自治会には同一敷地内にある関連施設と共に加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、年に1度、各職員がそれぞれ評価項目を点検し、更にその結果を管理者がまとめている。改善にまで至っていないものもあるが、一つ一つ改善する努力を積み重ねている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催回数は概ね3ヶ月に1度である。委員は、利用者の家族、民生委員、町職員及びホームの所長の4人である。会議では、利用者の生活の様子や行事などについて報告し、その他意見交換を行っている。出された意見は運営面の改善に生かしている。	○	開催回数は、基準省令では概ね2ヶ月に1回以上とされているので回数を増やすことについて検討することを期待する。又、構成員の人数についても、会議の活性化を諮る趣旨から利用者の参加や地域の有識者等からの参加などについても検討することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月の地域ケア会議に出席し、町との連携が図られている。また、書類等の提出は直接役場に赴いて届けるほか、収穫祭などのホームの行事にも招待している。更に、町からの委託を受けて、家族や地域の人々などを対象に認知症介護教室を開いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度家族が来所する際の面会時、さらに定期受診時期、行事説明の電話連絡の際などに、ホーム側から利用者の近況などを報告している。行事やお知らせを掲載した広報誌「かんろ」も配布している。金銭管理は行っていない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、要望は、毎月の面会時や電話連絡の時などのほかケアプランの評価の時に聞いている。運営推進会議にも家族代表が2年任期の交替で参加している。また、19年度から家族アンケートを行っており、今年度は12月のクリスマス会に家族が集まる機会に実施予定である。家族会はない。	○	個別の家族とは密接なコミュニケーションが確保されているが、その他に家族全体とホームとの話し合いの場も必要ではないかと思われる。クリスマスなどの行事で家族が集う機会に、短時間でも報告連絡事項の伝達とあわせて、家族全体と話し合う機会を設けることについて検討することを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新たに職員となった者は、利用者との信頼関係を築いて早期になじみの関係が作られるよう努めている。12月初めの新採用職員は、年齢バランス、社会的経験の豊富さなどを活かし、更に真摯な対応で、利用者の信頼を得つつあることが窺(うかが)えた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	所属法人の職員全体を対象とした研修の他、施設の研修としてグループホーム協会(ブロックを含む)、県の研修などの各種研修に年に1度は参加している。又、職場研修としてこれらの研修の伝達研修が行われている。研修計画は作られていないが、今後の検討課題と思われる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会で交流する他、交換研修も行っている。地域ケア会議は月に1回開催され、研修の機会としても大きな比重を占めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得ながら、慣れるまで頻繁に面会を行ったり、家族と外出する機会を作ったりしている。部屋が空いているときには体験入居をしてもらうこともある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活において、利用者から教えられたり、学んだりすることは沢山ある。特に調理などでは利用者に聞くことも多い。その他に、軍隊での経験、戦時中の暮らし、節約の考え方、畑での野菜づくりなど教えて貰ったりしている。習字が得意な人には掲示などの書き物を依頼することもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの評価、作成にあたっては本人とのコミュニケーションを活かし、本人の思いや意向を引き出すようにしている。食事時、利用者の何気ない言葉を職員が丁寧に確認したり、生活歴を把握するなど、日々の暮らしの中でも意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は施設長がまとめるが、ケアプランの見直しの際、日ごろ聴取している家族や本人の意見はもとより、利用者ごとに職員全員の意見が反映されている。(サービス担当者会議の記録より)		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しは利用者の状況の変化に応じて対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一敷地内にある老人保健施設や通所リハビリテーション事業所との協力体制があり、利用者の急変時に対応している。リフト浴の使用なども出来る。懐かしい場所への訪問など特別の外出にも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者とその家族が決めている。定期受診の際は血圧手帳などの健康情報を家族などの付き添い者に提供している。また、主治医からの指示等は必ず付き添い者から聴取することとしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者に重度化の兆候、突発的な疾病による急変が見られた場合は、利用者本位の観点で、本人や家族に選択肢を与えて話し合いをしている。方針は、運営者、管理者、全職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「人間としての尊厳を大切に・・・」というのが当ホームの理念であり、この理念は日常業務で常に確認されている。個人情報の使用目的は、「入居利用約款」に限定列挙されて入居時に利用者、家族の同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を目標として、日々の日課は決められているが、利用者の個性を尊重し、日常生活における利用者の希望は尊重されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理など炊事の仕事が好きな利用者は多い。買物、調理、盛り付け、食器洗い、テーブル拭きなど、できるだけ何かの仕事に携われるように役割分担がされている。字が上手な人は食堂の白板にその日の三食の献立を書いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は利用者との話し合いで決めているが、予定日以外でも希望があれば対応する。シャワーで対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味及び趣味を活かした役割を支援している。特に隣接の老人保健施設と合同で行う、習字、音楽、手工芸等のクラブ活動はこのホームの一つの特色である。そのほか、野菜作り、絵画、オセロなども行われているが、熱心に読書し、創作に励む人もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩をするのが日課である。ホームの周囲を、2グループに分けてそれぞれに職員二人が付き添って歩く。途中で出会う近所の人達と話を交わすことも多く、地域との交流にもなっている。買物、畑仕事、戸外でのレクリエーションなども行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関のドアに、利用者の外出を察知するためにベルを付けている。職員が短時間、一時的に手薄となる時間帯には最小限施錠することがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度避難訓練を2度行っている。1度目はホーム独自の訓練であり、2度目は隣接の老人保健施設との合同訓練である。今年度11月に、ホームからの直通電話が隣接の老人保健施設の当直と看護師へ繋がるようになった。	○	災害対策は、地域との結びつきが大切であるが、地域との連携が充分でないと感じる。運営推進会議での提言もあるので、対応組織を整備することを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は常に確認している。管理栄養士による栄養チェックも行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に囲まれて居間と食堂があり、その中間に厨房が配置されて、厨房からは共用空間の全体を見回すことができる。明るく、ゆったりとした雰囲気、利用者のそれぞれが、自分の好みに応じて時間を過ごすことができるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は全て板敷き(フローリング)でベッド、洗面台、ヒーターが配置され、利用者はそれぞれの生活に合わせて、たんす、本棚、机などの家具を持ち込んでいる。壁には写真などが飾られて温かみのある空間となっている。		